

第 4 回評価委員会における評価結果書案に関する主な意見

【質疑応答】

| | |
|-------|---|
| 法人意見 | 現在、経済学部でコミュニケーション英語の一部に習熟度別クラス編成を導入している。他の優先すべき課題もあるため、学生数が多くて比較的实施しやすい経済学部において効果の検証を行おうとしているところであり、導入に対して「過度に慎重である」(8頁)とは考えていない。 |
| 意見委員会 | 業務実績報告書の記述内容から判断したものである。今後は、他大学等周辺の状況をよく調査し、研究するとともに、業務実績報告書の記述の仕方でも判断しやすいよう工夫してもらいたい。 |

| | |
|-------|--|
| 法人意見 | 「当該年度計画の内容が大学全体に関するものであるにもかかわらず、一部の学部、研究科での取り組みの記述のみにとどまっているものが多く見られた」(11頁)と記述されているが、中期計画の最終的な年度に目標を達成していればよいため、学部、研究科間でどこを優先的に取り組むかという選択の違いは出てくる。 |
| 意見委員会 | 業務実績報告書に記述がないため、このような記述となった。大学全体として、中期計画期間を通じた見通しを立てているのであれば、18年度に取り組みがあった学部、研究科の記述のほか、19年度以降の他の学部、研究科の実施予定などについても記述してもらいたい。 |

| | |
|-------|---|
| 法人意見 | 医療事故の公表については、全てを公表するという立場で行っているため、年度計画[228]「医療事故公表基準の市民の視点に立った検討及び内容のさらなる充実」を と評価されることはつらい。 |
| 意見委員会 | 市立大学がよくやっていることは理解しているが、年度計画には、「市民の視点に立った検討を引き続き進め、内容のさらなる充実を図る。」と記述されており、18年度は「変更を行わなかった。」ということなので、の評価となった。年度計画の記述方法も含めて、検討することが必要。 |

| | |
|-------|---|
| 法人意見 | 「大学間交流協定」は、協定数を増やすよりも、既に協定を結んだ大学との関係を深めることを考えているため、「大学間交流協定大学数が少ない」(31、32頁)と言われるとつらい。 |
| 委員会意見 | 市立大学は優れた大学だと思っているが、それに比べて数が少ないという思いがありこのような記述になった。今後、数ではなく質を充実していく計画であれば、その内容を業務実績報告書にしっかりと記述して欲しい。 |

| | |
|-------|---|
| 法人意見 | 年度計画[258]については、データベースについては現状維持にとどまったが、電子ジャーナルは増えているため、総合的な判断でも良いのではないか。 |
| 委員会意見 | データベースの拡充・整備は行っていないため、年度計画の記述内容を満たしていないと評価した。 |

【その他】

(委員会意見)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・業務実績報告書は小項目ごとになっているが、プロジェクト単位でも評価できるよう、テーマごとの関連も記述して欲しい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・派遣職員、固有職員などわかりにくい表現については注記をするなど市民に誤解をあたえないようにして欲しい。 |

(法人意見)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・全体として、市立大学をよい方向へもっていきたいという趣旨が表現されていてありがたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ここ1、2年は法人化の議論が中心となり、自己点検ができていなかった。今後は大学全体の評価システムを作り上げていくことが必要だと考えている。 |